



調剤情報システム

調剤情報システムには、日常的にご使用いただく調剤情報システムと、万が一の災害時にネットワーク側で使用する災害時医薬品供給管理システムがあります。

調剤情報システムでは、薬局に設置されているレセコンと接続し、来店された患者さんのIDから、MMWINのサーバ上に格納されているこれまでの診療情報や処方・調剤履歴を参照することが出来ます。処方方の重複や禁忌薬のチェックなどが可能となり、診療内容に基づいた、より質の高い指導が可能となります。

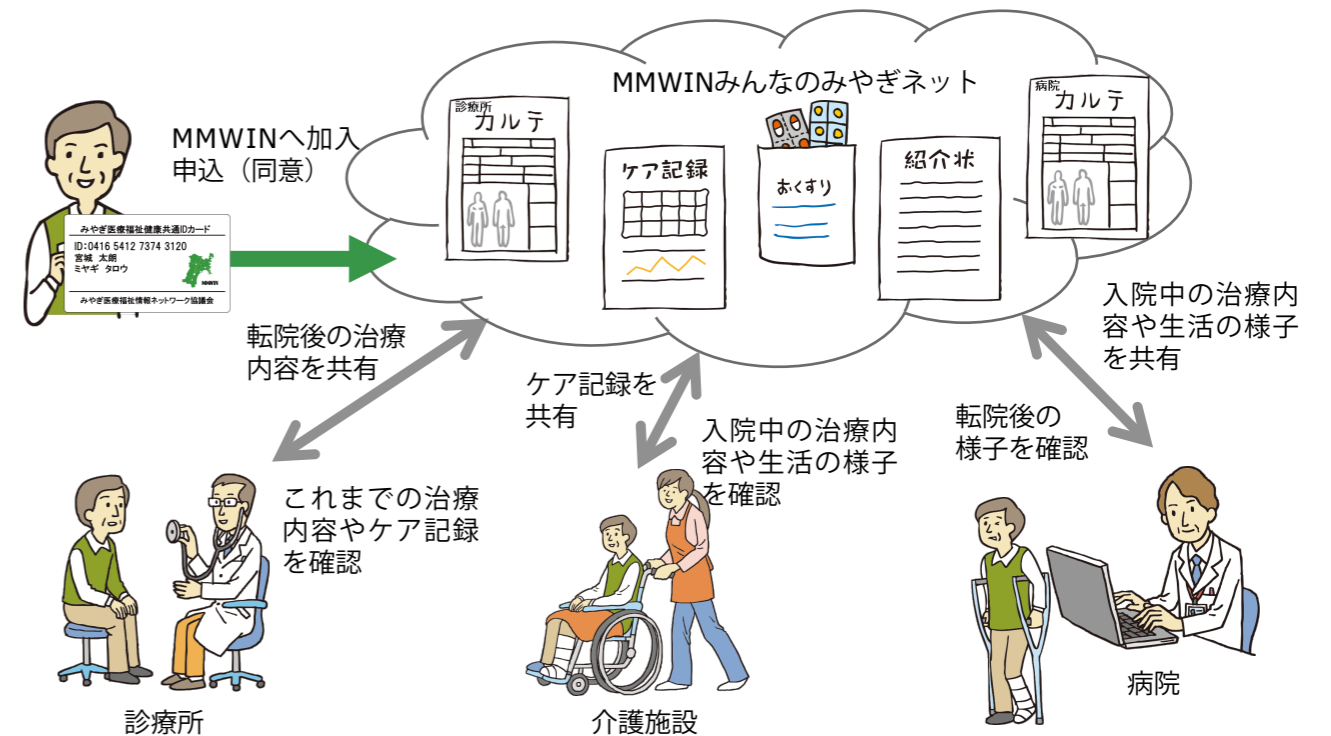
災害時医薬品供給管理システムは、万が一の災害時にどの地域でどのような薬がどのくらい使用されているか統計をとることが出来ます。薬の色や形状などから薬の種類を調べたり、同じ薬効や成分の薬を検索したりする機能もあります。



↑ (写真上) 処方チェックで、重複や禁忌を確認

MMWINみんなのみやぎネットとは…

MMWINみんなのみやぎネットは、MMWINに参加する病院、診療所、薬局、介護施設、訪問看護ステーションなどの、患者さんの医療情報・介護情報・調剤情報などをお預かりし、患者さんの同意のもとに、それらの情報を必要とするMMWIN参加施設から、参照、また、参加施設間で共有することを可能にします。他施設と情報連携をするためのネットワークです。より効率的で、質の高い医療・介護サービスを患者さんに提供する仕組みです。



遠隔カンファレンスシステム

医師間・医療介護福祉従事者間で医療相談などをリアルタイムに実施出来ます。セカンドオピニオンや遠隔メンタリング（専門医からのアドバイス）、中核病院と診療所間での遠隔画像診断、遠隔診療などを支援します。

遠隔会議や遠隔講義などにも使用されています。



↑ (写真上) 専門医からの指導の様子

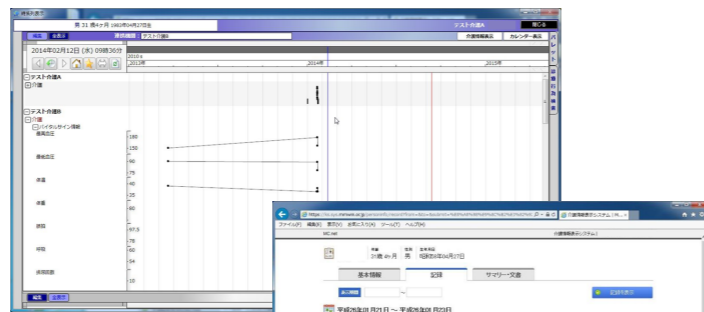


↑ (写真上) 遠隔講義受講の様子

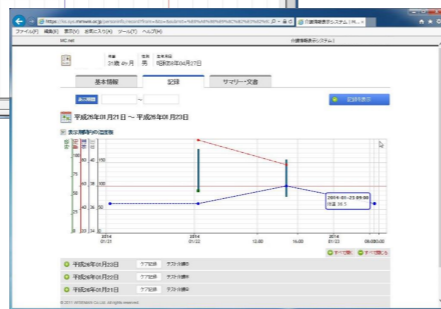
ASP型介護支援システム

フェイスシートなどの利用者情報管理、アセスメントやケアプランの作成、実績管理、支援経過などの書類作成に役立ちます。更に、ケア記録も電子化されているため、利用者さんを、MMWINみんなのみやぎネット参加診療所や病院にお連れする際などに、その情報を、医療施設で参照いただけるため、医療連携の観点からも、より効率的で質の高い介護サービスが提供できます。医療と介護のシームレスな連携を支えます。

また、電子化されたケア記録などは、遠隔保存されるため、災害時などへの対応も可能です。

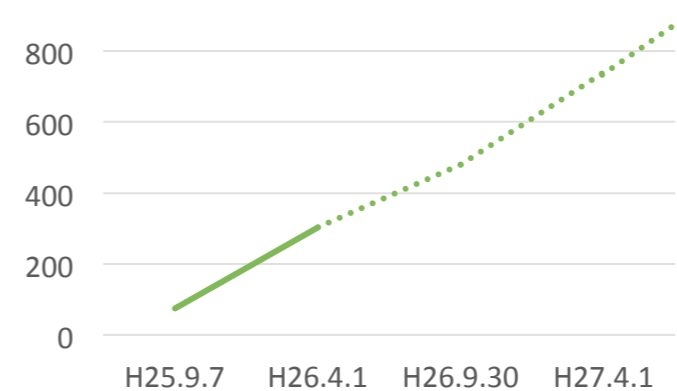


↑ (写真上) ケア記録を時系列表示にて表示



↑ (写真上) ケア記録

MMWINみんなのみやぎネット参加施設数



MMWINみんなのみやぎネット参加施設数は、平成25年9月7日の石巻圏・気仙沼圏システム開始稼働時は、74施設でした。平成26年4月1日の仙台圏システム開始稼働時は、既に始まっていた石巻圏・気仙沼圏と合わせて、330施設にご参加いただいております。今年度構築予定の県南圏・県北圏でご参加表明いただいている施設様を合わせると、480施設にご参加いただいております。

平成27年度から、宮城県全域がつながります。最終募集中です。詳しくは、参加についてのお問い合わせ022-265-5477（平日8-20時、土曜8-13時、日祝休み）に、お気軽にご連絡ください。

発行元 一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
仙台市青葉区中央3-10-19 仙台KYビル7階（一時移転先）

【参加に関するお問い合わせTEL】 022-265-5477（平日8-20時、土曜8-13時、日祝休み）
【事務局TEL】 022-395-6312 【FAX】 022-395-6313 【E-mail】 office@mmwin.or.jp

本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

MMWINみんなのみやぎネットのシステム紹介

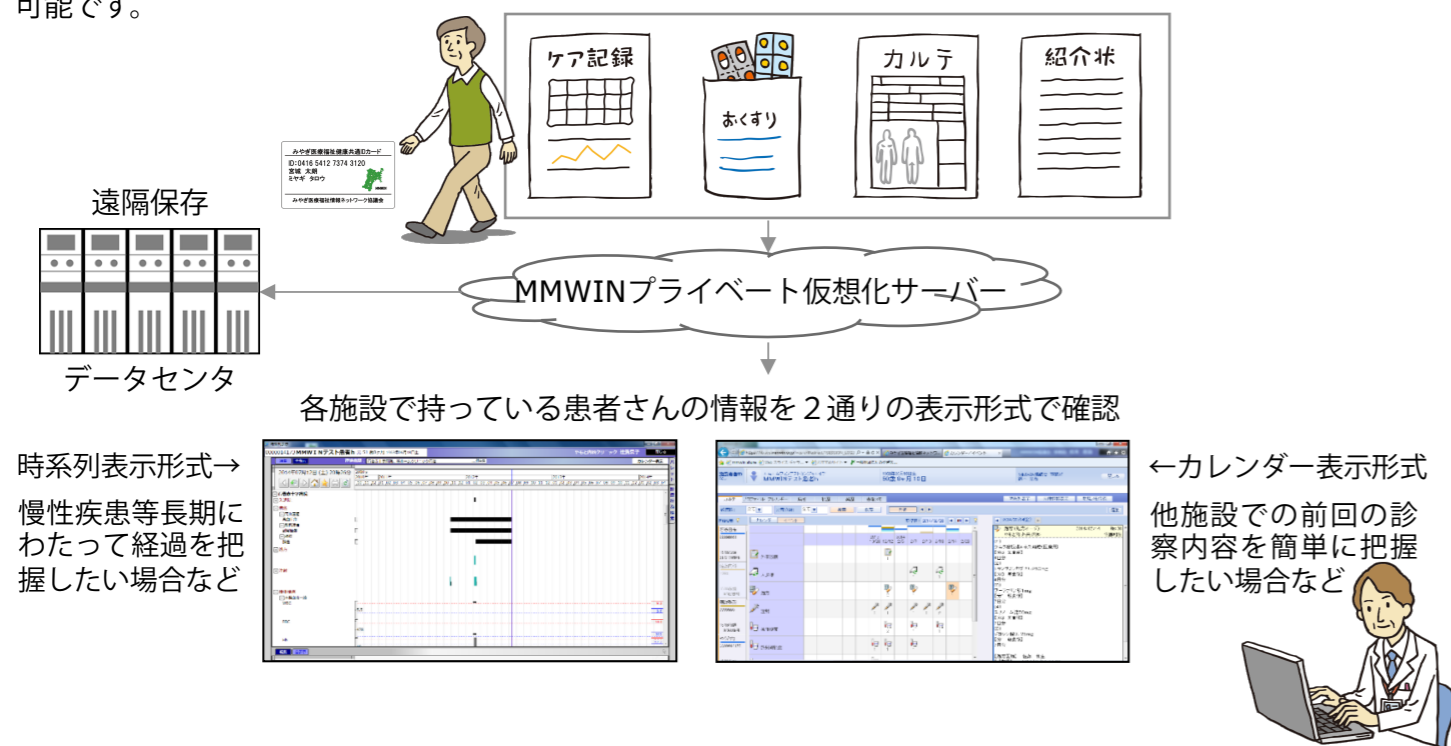
MMWINみんなのみやぎネットは、他施設と情報連携をするためのネットワークです。より効率的で、質の高い医療・介護の実現を支えます。

診療情報参照システム（診療情報連携基盤）

他施設と情報連携をするために、MMWINみんなのみやぎネット「診療情報参照システム（診療情報連携基盤）」を提供しています。

各施設で行った検査結果や処方内容、治療経過や介護などの情報を参照することが出来ます。画面に今までかかっていた施設とそれぞれの施設での処方や検査などの診療項目が時系列で表示されますので、一目で経緯を俯瞰することができます。

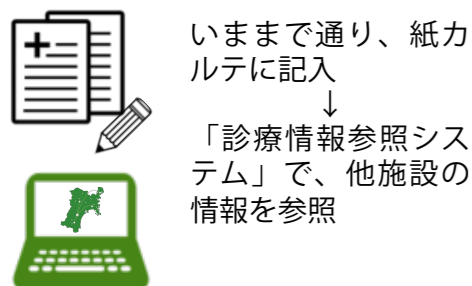
自施設では紙カルテのまま、他施設の情報を参照することが出来ます。また、既にご使用されている電子カルテシステムをそのまま使用し、そのデータをMMWINのサーバ上に格納（アップロード）することも可能です。



診療情報参照システム導入方法

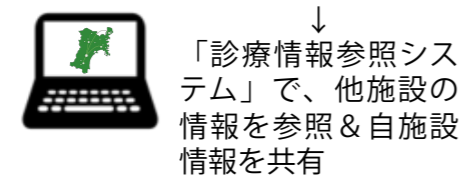
① 紙カルテのままでも大丈夫

紙カルテと併用可能



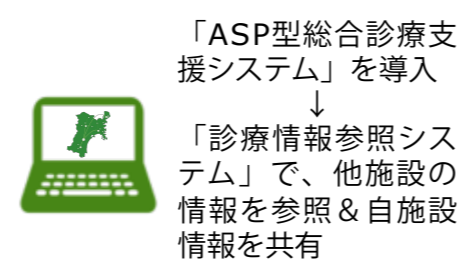
② お使いの電子カルテ等と接続可能

いまお使いの電子カルテやシステムに「診療情報参照システム」を設定可能



③ 新規に電子カルテ導入

新しく、電子カルテを導入することも可能



MMWINみんなのみやぎネットのオプションシステム紹介

より効率的で、質の高い医療・介護を実現するために、診療情報参照システムに追加できるMMWINがご提供する機能の一部をご紹介します。

基本システム

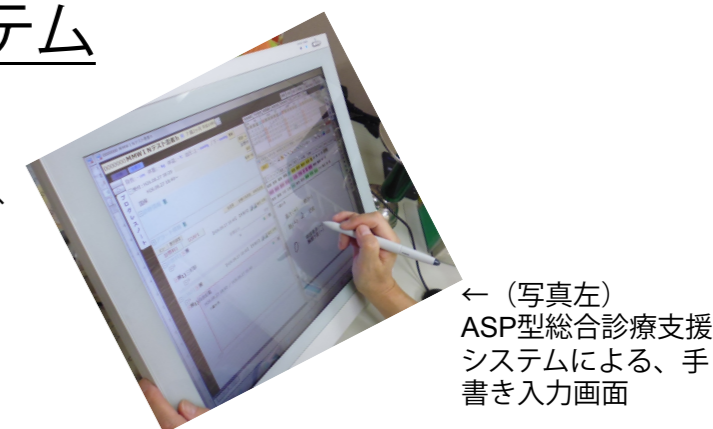
診療情報参照システム
（診療情報連携基盤）

オプションシステム

- ASP型総合診療支援システム
- 臨床連携パスシステム
- 在宅診療支援システム
- 遠隔健康管理システム
- 調剤情報システム
- 遠隔カンファレンスシステム
- ASP型介護支援システム
- 共通ICカードシステム
- 仮想化サーバーおよびネットワーク基盤
- バックアップシステム

ASP型総合診療支援システム

今まで電子カルテを使用されていない施設の皆様にも、MMWINの提供する「ASP型総合診療支援システム」を導入いただければ、電子カルテ機能が使用可能です。「ASP型総合診療支援システム」では、院内サーバーも不要で、データ類も遠隔保存されます。また、ボタン操作や手書き入力が出来て、患者さんと会話をしながら操作が出来ます。薬や処置など入力した情報により、受付では自動的に会計情報として出力され、患者さんの待ち時間も短くなります。



臨床連携パスシステム

臨床連携パスは、疾患ごとの地域医療連携パスや、各地域の情報共有ツールをMMWINみんなのみやぎネットシステム上で電子的に共有出来るシステムです。ひとりの患者さんを支える複数施設間で、最新の状態管理やタイムリーな情報連携が可能となります。また、転院（紹介）支援機能により、スピーディーな転院（紹介）を実現します。地域医療連携パスごとに、共有したい情報項目の選定や入力画面のカスタマイズが可能です。現在、このシステムを使い、従来病院や診療所で紙ベースで運用されていた石巻地区COPD（慢性閉塞性肺疾患）連携パスを電子ネットワーク化する試みが始まっております。



↑（写真上）
臨床連携パスの画面

在宅診療支援システム

血圧計や簡易エコー、心電計などの携帯型検査機器を持って在宅診療を行い、その往診時のバイタル情報やメモ等を収集し、医師や看護師、介護士などのケアチーム内で共有します。また、ケアチーム内で介護に関する情報（ケアプラン、利用票、福祉用具説明書など）を添付文書により共有することも出来ます。



↑（写真上）
ケアチーム内での情報交換画面